

外国語教育メディア学会 (LET)

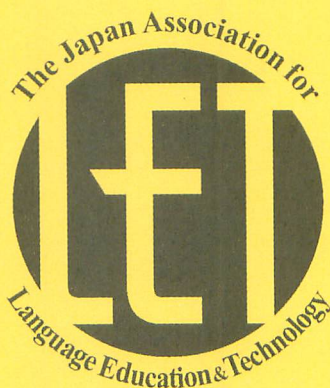
The Japan Association for Language Education and Technology

# 第51回(2011年度) 全国研究大会

The 51st Annual Conference

「外国語学習での自律性と継続性」

Autonomy and Sustainability in Language Learning



主催 外国語教育メディア学会 (LET)

会長 竹内 理

大会会長 尾関 修治

後援 文部科学省 (申請中)

愛知県教育委員会 (申請中)

期日 2011年8月6日 (土) ~8日 (月)

会場 名古屋学院大学 名古屋キャンパス 白鳥学舎

〒456-8612 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号

TEL: 052-678-4080

大会事務局 中部大学語学センター 小栗成子研究室内

〒487-8501 春日井市松本町1200

TEL: 0568-51-6649 FAX: 0568-51-1842

お問い合わせは大会サイト (下記) の「お問い合わせと原稿送信」より

<http://LET.lang.nagoya-u.ac.jp>

## ごあいさつ

### Foreword

## A friendly pat

尾関 修治

OZEKI, Shuji

全国大会会長・LET中部支部長・名古屋大学

Conference Chair, President of LET Chubu Chapter  
Nagoya University

学会の研究大会とはある種社会から影響されない非日常の世界であってほしいと思うのですが、今年度に限っては、大震災とそれに続く災害、苦悩というものを意識しないではいられないものとなりました。直接被害に遭われた会員がいないことを願うばかりですが、それでも5月まで大学キャンパスに入れず、あるいは小中高校では生徒たちへのさまざまなケア、計画停電あるいは節電と授業期間の変更等々と、さまざまな対応に追われている会員が多いのではないかと思います。残念ながら関東や東北の皆さんからの発表件数も例年より少なく、研究活動への影響を感じさせられません。

こんなときに学会に集うことにどのような意味があるのでしょうか。チャールズ・シュルツの漫画「Peanuts」の一シーンを思い出します。例によって落ち込むライナス、こんな気持ちをどうしたら治せる? (“What's the cure for disillusionment, Charlie Brown?”)と尋ねます。チャーリー・ブラウンはさらっと答えます：

“A chocolate-cream and a friendly pat on the back.”

(甘いチョコと、友だちが背中をポンとたたいてくれることだよ)

そう、「友」がいて、優しく肩をたたいて声をかけてくれる、それで癒されるものもあると思うのです。

大会テーマは「外国語学習での自律性と継続性」です。自ら学び、続けていくには、教材やカリキュラムが大切ですが、背中をそっと押し肩をたたいてくれる友の存在も欠かせません。懇親会でチョコクリームのパイをお出しできるかどうかはわかりませんが、どうぞ多くみなさまが名古屋の地に集まり、研鑽の合間に肩をたたきあい旧交を温めていただければと願っています。

**8月6日 (土)**

Saturday, August 6th

※8月6日は支部別の受付はありません。

## 各種委員会・支部長連絡会・理事会

Committee Meetings, Chapter Presidents' Meetings and National Directors' Meeting

13:30-16:40

## ワークショップ

Workshops

13:00-

## 受付：曙館1階ホール

Reception: 1st Floor, Akebono

13:30-15:00

WS1: Rによる教育データ分析入門

小林 雄一郎 (大阪大学大学院・日本学術振興会)

WS2-1: 英語の動画教材を作る・配信する！ 入門編

森田 光宏 (山形大学)

WS3-1: Moodle NetworkによるMoodleサイト間のリソースと活動の共有

原島 秀人 (前橋工科大学)

WS4-1: R 最速入門

阪上 辰也 (広島大学)

15:10-16:40

WS1: Rによる教育データ分析入門 (続き)

※WS1は13:30からの2コマ連続でのみ受講できます。

WS2-2: 教師のためのGoogle使いこなし入門

淡路佳昌 (世田谷中学校)

WS3-2: 外国語教育データ分析で留意しなければならないこと：学習者の実態をより伝え・より理解するための方策

前田 啓朗 (広島大学)

各ワークショップの詳細は、大会サイト(<http://LET.lang.nagoya-u.ac.jp>)  
をご覧ください。

The 51st Annual Conference of the Japan Association for Language Education and Technology

申込方法：大会サイトの「各種申し込み」でお申し込みください。申し込み直後に「整理番号」を記したメールが自動送信されます。お問い合わせ・受付にはこの整理番号が必要です。

申込期間：7月末まで。ただし、ワークショップごとの定員に達し次第締め切ります。

受講料：1コマ1,000円。（WS1は2コマ分です。）すべて事前にお振り込みください。振込先やキャンセル方法は大会サイトでのお申し込み時にご確認ください。当日受付で領収書をお渡しします。

17:30-18:00

## 開会式：201教室

Opening Ceremony: 201

18:00-19:30

## 市民フォーラム：201, 202教室

Open Forum: 201, 202

※202教室は201教室からの中継となります。

## ALTと語る英語教育のいま：小中学校の現場から

Let's talk about the pressing issues and problems of English language teaching in Elementary and junior high schools with ALT

コーディネータ：高橋 美由紀 (愛知教育大学)

Coordinator: TAKAHASHI Miyuki (Aichi University of Education)

パネリスト：

河木 恵美子 (豊田市教育センター・元豊田市立古瀬間小学校校長)

スマレ・ブラックバーン (岡崎市教育委員会所属ALT)

ピーター・リチャードソン (アルティアセントラルスーパーバイザー・元小牧市ALT)

Panelists: KAWAKI Emiko, Sumire Blackburn and Peter Richardson

今年度から新学習指導要領により小学校外国語活動が必修化されました。中学校では、小学校で英語学習を経験してきた生徒に、より実践的なコ

コミュニケーション能力を育成することを目指して、来年度から授業時間が週1時間増加します。

しかしながら、学校現場では、指導方法や教育環境が整備されていないのが現状です。たとえば、ALT (Assistant LanguageTeacher) についても、雇用の問題、財源の逼迫、日本人教師とのチーム・ティーチングによる授業方法の確立等についての課題は山積しています。

このフォーラムでは、(1)学校現場において、児童・生徒が英語力・コミュニケーション能力を育成し、向上させるために、どの様にALTと協働し指導していったら良いのか？(2)小学校ではコミュニケーションの素地を育成するために、中学校では増える週1時間に対して、ALTがどういう形で活躍できるかを、ALTの先生、現場の先生方と一緒に考えていきたいと思えます。

**8月7日 (日)**

Sunday, August 7th

9:30-

**受付：曙館1階ホール**

Reception: 1st Floor, Akebono

10:00-17:00

**賛助会員展示：2階、3階ホール**

Commercial Members' Exhibits

※巻末の出展賛助会員一覧をご覧ください。

10:00-11:20

**基調講演：201, 202教室**

Keynote Speech: 201, 202

※202教室は201教室からの中継となります。

**第2言語の文構造の獲得—日本語学習者の文理解のメカニズム**

Acquisition of L2 (second language) sentence structure: Mechanism of sentence understanding by learners of the Japanese language

玉岡 賀津雄

Katsuo Tamaoka, Ph.D.

名古屋大学大学院・国際言語文化研究科・教授

Professor, Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University

言語理解のプロセスを解明するのに語順は重要な手がかりとなる。日本語は、語順の制約が柔軟な言語であり、正順語順 (canonical order) はSOV [主語・目的語・動詞]であるが、OSVのかき混ぜ語順 (scrambled order) をつくることもできる。日本語母語話者を対象とした実験では、かき混ぜ語順は正順語順より文処理により長い時間を要することが分かっている。これは、スクランブル効果 (scrambling effects) と呼ばれている。この特性を使って、Tamaoka, Sakai, Kawahara, Miyaoka, Lim, and Koizumi (2005)は、意味役割(thematic roles), 格助詞(case particles), 文法機能 (grammatical functions)のどれが語順を決める普遍的な情報であるかを検討した。能動文, 受動文, 可能文を用いて正順およびかき混ぜ語順の文正

誤判断課題を実施した。その結果、すべての文の正順語順を満足しうる情報を提供できたのは文法機能だけであった。日本語母語話者は、文法機能を手がかりに正順語順の文の基底構造 (base structure) を作っていることが実証された。

それでは、日本語を母語としない第2言語学習者は、日本語母語話者と同様に日本語の文を処理しているのだろうか。仮に異なるとすれば、日本語学習者の母語の正順語順の影響を受けるのであろうか。そこで、日本語学習者を対象とした日本語の文処理実験の結果を紹介しながら、第2言語における日本語の文構造の獲得過程について考える。

中国語を母語とする上級レベルの日本語学習者を対象とした正順語順とかき混ぜ語順の文処理実験(玉岡, 2005; 玉岡・邱・宮岡・木山, 2010)によると、中国人日本語学習者は、能動文について、正順語順をかき混ぜ語順より迅速かつ正確に処理できた。しかし、格助詞と文法機能で基本語順の予測が異なる可能文(例えば、「花子にピアノが弾けるだろうか。」)では、正順語順とかき混ぜ語順の処理時間に有意な違いは見られず、むしろ大きな個人差が観察された。学習者の処理方略から、格助詞で判断している群、文法機能を理解している群、両者ともに理解していない群の3つに分けられた。また、玉岡・邱・宮岡・木山(2010)では、聴解テストの能力で分けた上位・中位・下位の3群で、音声提示の正順語順の理解は徐々に伸びるのに対して、かき混ぜ語順では上位群になるまで理解が伸びないことを示した。さらに、日本語と正順語順が同じSOVである韓国語を母語とする日本語学習者と中国語母語話者とを比較した最近の研究 (Tamaoka & Kiyama, in preparation; 大和・玉岡, 2011) も紹介して、母語の影響を議論する。

11:40-13:20

## 公募シンポジウム

Symposiums

### 201教室

186

多様な大学環境における英語 e ラーニング学習者アンケートからみえてくるもの—

English e-learning in various university settings

|                |  |
|----------------|--|
| 青木 信之 (広島市立大学) | Nobuyuki AOKI (Hiroshima City University)  |
| 鈴木 繁夫 (名古屋大学)  | Shigeo SUZUKI (Nagoya University)          |
| 竹井 光子 (広島修道大学) | Mitsuko TAKEI (Hiroshima Shudo University) |
| 志水 俊広 (九州大学)   | Toshihiro SHIMIZU (Kyushu University)      |
| 渡辺 智恵 (広島市立大学) | Tomoe WATANABE (Hiroshima City University) |

能登原 祥之 (比治山大学) Yoshiyuki NOTOHARA (Hijiyama University)

池上 真人 (松山大学) Masato IKEGAMI (Matsuyama University)

寺嶋 健史 (松山大学) Takeshi TERASHIMA (Matsuyama University)

## 202教室

237

小学校外国語活動における電子黒板教材の新たな開発への視点

Viewpoints for the development of new teaching materials for interactive boards in English teaching in elementary schools

柳 善和 (名古屋学院大学) YANAGI, Yoshikazu (Nagoya Gakuin University)

高橋 美由紀 (愛知教育大学) TAKAHASHI, Miyuki (Aichi University of Education)

加藤 拓由 (神屋小学校) Kato, Hiroyuki (Kamiya Elementary School)

12:10-13:20

## 賛助会員デモンストレーション

Demonstrations

### 301教室

12:10-12:40 218 株式会社 成美堂

In Touch with the Timesを利用した対話型英語指導

Case Method in Teaching English with In Touch with the Times

宍戸 真 (順天堂大学) Makoto SHISHIDO (Juntendo University)

12:50-13:20 219 株式会社エル・インターフェース

スーパー英語アカデミックエクスプレス2 大学での活用事例

田島 千恵 (ITシステムサービス部) TAJIMA Chie (IT System Dev.)

### 302教室

12:10-12:40 220 HOYAサービス株式会社

魔法の英語音読 / 発音矯正ソフトウェア GlobalvoiceCALL

藤田 雅也 (HOYAサービス株式会社) FUJITA Masaya (HOYA Service Corp)

12:50-13:20 227 文化学園アカデミックアーカイブセンター

最新のニュース素材で外国語教育を支援します

加来 賢一 (文化学園アカデミックアーカイブセンター)

Kenichi KAKU (Educational Foundation BUNKA GAKUEN Academic Archive Center)

### 303教室

12:10-12:40 228 リアル・イングリッシュ・ブロードバンド株式会社

reallyenglish : Blended Learningのご提案

reallyenglish: Blended Learning

栗林 克樹 (リアル・イングリッシュ・ブロードバンド株式会社)

Yoshiki KURIBAYASHI (Real English Broadband Co.,Ltd.)

12:50-13:20 229 国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部

ライティング指導を効率化するツール「Criterion(R)」ーデモと事例紹介

山口 学 (TOEFL事業部)

Manabu YAMAGUCHI (TOEFL Division)

## 304教室

12:10-12:40 231 株式会社 教育測定研究所

自主的に学習できる次世代の英語ライティング学習システムCASEC-WT (Writing Tutor)

CASEC-WT Writing Tutor

杉本 洋美 (株式会社 教育測定研究所)

Hiromi SUGIMOTO (The Japan Institute for Educational Measurement, Inc.)

12:50-13:20 232 株式会社アルク教育社

Eラーニングで実践する「語彙力」トレーニングの活用事例

神成 紀州 (名古屋支店)

KANNINARI Motokuni (Nagoya branch)

13:00-16:00

## ポスターセッション：2階ホール

Poster Sessions: Corridor, 2nd Floor

136

多読指導と授業内活動のオーラル・インタープリテーション実践

Extensive Reading and Oral Interpretation

平尾 節子 (名城大学)

HIRAO Setsuko (Meijo University)

145

言語テストスコアにおけるカオスの時系列の短期予測

Short-term prediction on chaotic time-series about language test scores

木戸 和彦 (環太平洋大学)

Kazuhiko KIDO (International Pacific University)

岡崎 弘信 (秋田県立大学)

Hironobu OKAZAKI (Akita Prefectural University)

岩崎 彰典 (岡山理科大学)

Akinori IWASAKI (Okayama University of Science)

155

メタ認知モニタリングトレーニングが大学生の英語の受容的能力に与える影響

The Effect of Metacognitive Monitoring Training on L2 Receptive Skills

高橋 幸子 (ノートルダム清心女子大学)

Sachiko TAKAHASHI (Notre Dame Seishin University)

164

アークメント重複による学習者英作文の結束性の測定について-Coh-Metrixを利用して-

Measuring Cohesion of Learners' English Compositions by Argument Overlap-With Use of Coh-Metrix

202

英語未知語復唱に与える絵と文字の影響：小学生に対する実証的検討

Effect of pictures and words in unfamiliar English word repetition task: An empirical study among 4th and 5th graders

斉藤 倫子 (関西学院大学大学院)

SAITO Tomoko (Kwansei Gakuin University, Graduate School of Language, Communication, and Culture)

13:30-16:40

## 研究発表・実践報告

Presentations

### 201教室

司会：

神田 明延 (首都大学東京)

Akinobu KANDA (Tokyo Metropolitan University)

水野 邦太郎 (福岡県立大学)

Kunitaro MIZUNO (Fukuoka Prefectural University)

時間帯

整理番号

発表種別

13:30-14:00

153

研究発表

CALL教材を利用したチャンク単位での音読訓練が読解速度と読解効率に与える効果

The Effects of Chunk Reading with CALL Software on Reading Speed and Efficiency

神田 明延 (首都大学東京)

Akinobu KANDA (Tokyo Metropolitan University)

湯舟 英一 (東洋大学)

Eiichi YUBUNE (Toyo University)

田淵 龍二 (ミント音声教育研究所) Ryuji TABUCHI (Mint Sound Education Group)

池山 和子 (恵泉女学園大学)

Kazuko IKEYAMA (Keisen Women's University)

山口 高嶺 (早稲田大学)

Takane YAMAGUCHI (Waseda University)

鈴木 政宏 (西武文理大学)

Masahiro SUZUKI (Bunri University of Hospitality)

14:10-14:40

179

研究発表

初級ドイツ語を学ぶ日本人大学生のシンタクス-LMSデータに基づく中間言語分析-

Syntax of Japanese University Students Learning German for Beginners-An Analysis of Interlanguage Based on LMS Data-

杉浦 謙介 (東北大学)

SUGIURA Kensuke (Tohoku University)

14:50-15:20

192

研究発表

CALL教材におけるスピード調節機能付チャンク提示法に関する実証研究

An Experimental Study on Chunk-reading Training using CALL: Use of Different Speed Mode Displays

安部 由美子 (国際基督教大学)

Yumiko ABE (International Christian University)

松田 憲 (東北公益文科大学)

Ken MATSUTA (Tohoku University of Community Service and Science)

15:30-16:00

206

実践報告

Preparing and reviewing conversations by using the Glexa system

## 外国語教育メディア学会第51回全国研究大会

Preparing and reviewing conversations by using the Glexa system

河合 剛 (北海道大学)

Goh KAWAI (Hokkaido University)

大西 昭夫 (株式会社VERSION2) Akio OHNISHI (VERSION2)

16:10-16:40 212 研究発表

プロジェクトIRC—多読の授業における互恵的な読書環境の創出—

Project IRC: Creating a Reciprocal Reading Environment in an Extensive Reading Class

水野 邦太郎 (福岡県立大学) Kunitaro MIZUNO (Fukuoka Prefectural University)

## 202教室

司会 :

濱岡 美郎 (広島国際大学)

Yoshiro HAMAOKA (Hiroshima International University)

小張 敬之 (青山学院大学)

OBARI, Hiroyuki (Aoyama Gakuin University)

13:30-14:00 146 実践報告

“The CMU Pronouncing Dictionary”の発音データを英語教授用資料として利用する

Using “The CMU Pronouncing Dictionary” Data for Teaching English

濱岡 美郎 (広島国際大学) Yoshiro HAMAOKA (Hiroshima International University)

14:10-14:40 150 実践報告

Web上のFlash教材によるチャンク読みシャドーイング訓練の効果

Web-based training generated in Flash for chunk-based shadowing

湯舟 英一 (東洋大学)

Eiichi YUBUNE (Toyo University)

峯 慎一 (明治大学)

MINE Shinichi (Meiji University)

14:50-15:20 161 実践報告

オンラインを利用したコミュニケーション・タスクの取り組み

Online-based Communication Tasks

白田 悦之 (函館工業高等専門学校) USUDA Yoshiyuki (Hakodate National College of Technology)

15:30-16:00 214 研究発表

オンライン異文化交流における「つながり」のネットワーク分析の試み

A network analysis of the participants' relationship in a forum-based online intercultural exchange

荒木 瑞夫 (宮崎県立看護大学) Tamao ARAKI (Miyazaki Prefectural Nursing University)

16:10-16:40 215 実践報告

モバイルを利用したブレンド型の英語教育と評価

English Education with Blended Learning Using a Mobile Phone and Assessment

小張 敬之 (青山学院大学)

OBARI, Hiroyuki (Aoyama Gakuin University)

## 203教室

司会 :

井土 康仁 (藤田保健衛生大学)

IDO Yasuhito (Fujita Health University)

佐藤 明彦 (拓殖大学)

Akihiko SATO (Takushoku University)

13:30-14:00 156 研究発表

大学英語教育における映画の様々な活用法 — 『モナリザ・スマイル』を中心に—

Several Methods of Teaching English through Movies - Mona Lisa Smile and others-

井土 康仁 (藤田保健衛生大学) IDO Yasuhito (Fujita Health University)

寶壺 貴之 (岐阜聖徳学園大学短期大学部) HOKO Takayuki (Gifu Shotokugakuen  
University Junior College)

14:10-14:40 182 実践報告

初習外国語授業におけるスライド教材提示の円滑化と多目的利用 — データベース・ソフトウェアを応用したロシア語教育実践事例

Material Development for Beginner's Language Classes using Database Software

高木 美菜子 (日本ロシア語教育研究会) TAKAGI, Minako (The Japanese Society for  
Russian Language Education)

三浦 由香利 (神戸市外国語大学) MIURA, Yukari (Kobe City University of Foreign Studies)

神谷 健一 (大阪工業大学) KAMIYA, Kenichi (Osaka Institute of Technology)

14:50-15:20 189 研究発表

音声に特化したリスニングテスト作成の基礎研究：ディクテーションとインタビューによるリスニング力調査

A Preliminary Study for Developing Listening Tests to Assess Learners' Phonetic Proficiency : Using Dictation and Interviews

菅井 康祐 (近畿大学) Kosuke SUGAI (Kinki University)

神崎 和男 (大阪電気通信大学) Kazuo KANZAKI (Osaka Electro-Communication  
University)

山根 繁 (関西大学) Shigeru YAMANE (Kansai University)

15:30-16:00 194 研究発表

字幕付き視聴覚教材の使用による聴解力育成効果—音声知覚に焦点をあてて—

Effects of captioned materials on the development of learners' listening skills: Focus on their speech perception

細越 響子 (京都大学) Kyoko HOSOGOSHI (Kyoto University)

16:10-16:40 205 研究発表

DVDを活用した英語教材開発の試み—Challenging BBC on DVDの作成にあたって—

An Attempt to Develop DVD-based English Teaching Materials

佐藤 明彦 (拓殖大学) Akihiko SATO (Takushoku University)

## 301教室

司会：

西田 理恵子 (関西大学) NISHIDA Rieko (Kansai University)

有本 純 (関西国際大学) Jun ARIMOTO (Kansai University of International Studies)

13:30-14:00 140 研究発表

小学校外国語活動における児童の動機づけと情意要因に関する実証研究：言語専門家の招聘頻度に関して

Elementary School Pupils' Motivation and Affective Variables in Foreign Language Activities as Related to Annual Hours of English Instruction

外国語教育メディア学会第51回全国研究大会

西田 理恵子 (関西大学) NISHIDA Rieko (Kansai University)

14:10-14:40 141 研究発表  
異文化理解を目指した英語聴解力養成用CALL教材の開発

Development of a CALL System for Cultural Understanding

高橋 秀夫 (千葉大学) Hideo TAKAHASHI (Chiba University)  
土肥 充 (千葉大学) Mitsuru DOI (Chiba University)  
竹蓋 順子 (大阪大学) Junko TAKEFUTA (Osaka University)  
与那覇 信恵 (文京学院大学) Nobue YONAHARA (Bunkyo Gakuin University)

14:50-15:20 168 研究発表  
小学校英語活動と中学校英語教育とのスムーズな接続に対するTPRの有効性に関する実証的研究

An Empirical Study on the Effectiveness of TPR for the Smooth Connection between Elementary School Foreign Language Activity and Junior High School English Education

黒川 愛子 (久御山町立久御山中学校) KUROKAWA Aiko (Kumiyama Junior High School)  
鈴木 寿一 (京都外国語大学) SUZUKI Junichi (Kyoto University of Foreign Studies)

15:30-16:00 170 研究発表  
高校英語初級学習者のための語彙力養成用CALL教材の開発

A CALL System for Teaching English Vocabulary to Japanese High School Students

桑原 市郎 (千葉県立野田中央高等学校) KUWABARA, Ichiro (Chiba Prefectural Noda-Chuo Senior High School)  
高橋 秀夫 (千葉大学) TAKAHASHI, Hideo (Chiba University)

16:10-16:40 180 研究発表  
中高教職課程における英語発音指導の扱い—近畿地方のシラバス調査—

Status of English Pronunciation Teaching in Teacher-Training Courses: A Survey of University Syllabi in Kinki Area

有本 純 (関西国際大学) Jun ARIMOTO (Kansai University of International Studies)  
中西 のりこ (神戸学院大学) Noriko NAKANISHI (Kobe Gakuin University)  
河内山 真理 (関西国際大学) Mari KOCHIYAMA (Kansai University of International Studies)  
山本 誠子 (神戸学院大学) Tomoko YAMAMOTO (Kobe Gakuin University)  
山本 勝巳 (流通科学大学) Katsumi YAMAMOTO (University of Marketing and Distribution Sciences)

## 302教室

司会：  
表 昭浩 (関西大学大学院) Akihiro OMOTE (Graduate School of Foreign Language Education and Research)  
山内 豊 (東京国際大学) Yutaka YAMAUCHI (Tokyo International University)

13:30-14:00 151 研究発表  
NNS教師は何故L2授業でL1使用を選択するのか

Why NNS teachers choose to use L1 in L2 instructions?

表 昭浩 (関西大学大学院) Akihiro OMOTE (Graduate School of Foreign Language Education and Research)

14:10-14:40 159 研究発表

大学生が考える自己の英語能力と社会に必要な英語能力とは—大学生の意識調査から—

College students' analyses on their acquired and demanded English skills

白木 智士 (神戸市外国語大学) Satoshi SHIRAKI (Kobe City University of Foreign Studies)

安川 佳子 (関西国際大学) Keiko YASUKAWA (Kansai University of International Studies)

吉田 桂子 (甲南大学) Keiko YOSHIDA (Konan University)

佐々木 緑 (関西国際大学) Midori SASAKI (Kansai University of International Studies)

14:50-15:20 178 研究発表

教室内の人間関係と英語力の関係

The relationship between students' inter personal relations in their classrooms and English skills in their English classes

大湊 佳宏 (長岡工業高等専門学校) Yoshihiro OMINATO (Nagaoka National College of Technology)

茅野 潤一郎 (新潟県立大学) Junichiro CHINO (University of Niigata Prefecture)

峯島 道夫 (新潟工科大学) Michio MINESHIMA (Niigata Institute of Technology)

15:30-16:00 193 研究発表

協働学習を取り入れた英語ライティング指導の可能性

The potential of collaborative L2 writing

阿部 真 (獨協大学) Makoto ABE (Dokkyo University)

山西 博之 (関西外国語大学) Hiroyuki YAMANISHI (Kansai Gaidai University)

16:10-16:40 213 研究発表

シャドーイングの自動評価の妥当性に関する観点別評価面からの考察

A Study on the Validity of Automatic Evaluation of Shadowing Performances by Japanese EFL Learners in Comparison with Discrete-Point Evaluation

山内 豊 (東京国際大学) Yutaka YAMAUCHI (Tokyo International University)

峯松 信明 (東京大学) Nobuaki MINEMATSU (University of Tokyo)

羅 徳安 (中国科学院) Dean LUO (Chinese Academy of Sciences)

川村 明美 (東京国際大学) Akemi KAWAMURA (Tokyo International University)

西川 恵 (東海大学) Megumi NISHIKAWA (Tokai University)

## 303教室

司会:

小山 敏子 (大阪大谷大学) Toshiko KOYAMA (Osaka Ohtani University)

柴本 和子 (関東学院大学) Kazuko EIMOTO (Kanto-gakuin University)

13:30-14:00 162 研究発表

メタ認知を活性化させる電子辞書方略指導の試み

Activating Metacognitive Skills via E-dictionary Strategy Training

小山 敏子 (大阪大谷大学) Toshiko KOYAMA (Osaka Ohtani University)

外国語教育メディア学会第51回全国研究大会

14:10-14:40 171 実践報告

英語による災害情報発信の重要性と英語教育の関わりについて

Importance of Disaster Alerting Transmission in English: in Reference to the Role of TEFL

東 淳一 (流通科学大学) Junichi AZUMA (University of Marketing and Distribution Sciences)  
山本 勝巳 (流通科学大学) Katsumi YAMAMOTO (University of Marketing and Distribution Sciences)

14:50-15:20 174 研究発表

プレゼンテーション中心授業が理工学部学生に与える情意的影響の検証～理想の自己像とSDTの観点から～

Examining the Motivational Effect of Presentation Based Instruction on Japanese Engineering Students from the Point of Ideal Self Image and SDT

前川 洋子 (大阪キリスト教短期大学) Yoko MAEKAWA (Osaka Christian Junior College)  
八島 智子 (関西大学) Tomoko YASHIMA (Kansai University)

15:30-16:00 175 実践報告

海外英語協働研修：複雑な現実の状況から学ぶ事

Learning in an authentic and complicated situation of US seminar camp

保崎 則雄 (早稲田大学) HOZAKI Norio (Waseda University)  
北村 史 (早稲田大学) KITAMURA Fumito (Waseda University)  
滝沢 恵子 (早稲田大学) TAKIZAWA Keiko (Waseda University)

16:10-16:40 201 実践報告

タスク活動が英語学習者の動機付けとなり得るか？—英字新聞・TVニュース/TVコマーシャルの作成を通して—

Are task activities helpful to motivate Japanese learners of English?—through making newspapers, TV News/TV commercials—

柴本 和子 (関東学院大学) Kazuko EIMOTO (Kanto-gakuin University)

## 304教室

司会：

中平 里実 (関西大学大学院) NAKAHIRA Satomi (Graduate school, Kansai University)  
平井 愛 (京都精華大学) Ai HIRAI (Kyoto Seika University)

13:30-14:00 144 研究発表

自己不一致理論に基づいたL2 selfの尺度作成：L2 selfと動機づけ、国際的志向性との関係

Developing L2 selves Scales Based on the Self-Discrepancy Theory: Relationship between L2 selves and L2 Motivation, and that between L2 selves and International Posture

中平 里実 (関西大学大学院) NAKAHIRA Satomi (Graduate school, Kansai University)  
八島 智子 (関西大学) YASHIMA Tomoko (Kansai University)

14:10-14:40 147 研究発表

英語教育における自己調整学習に関する質問紙の作成

The Development of a Scale to Assess Self-Regulated Learning in EFL Classrooms

香林 綾子 (関西大学) KOBAYASHI Ayako (Kansai University)

14:50-15:20 149 研究発表

EFL環境下における L2 Motivational Self Systemの検証：英語専攻者と非専攻者を比較して

Validating the L2 motivational self system in an EFL context: A comparative study of English major students and Non-English major students

植木 美千子 (関西大学大学院) UEKI Michiko (Kansai University Graduate school)

15:30-16:00 181 研究発表

ネットワーク分析を応用した探索的学習行動分析

The Use of Network Analysis for Explorative Data Mining of Learning Behavior

住 政二郎 (流通科学大学) Seijiro SUMI (University of Marketing and Distribution Sciences)

16:10-16:40 188 研究発表

誘出タスクの違いがもたらす発話への影響

Influence of Different Elicitation Tasks upon Japanese EFL Learners' Utterances

平井 愛 (京都精華大学) Ai HIRAI (Kyoto Seika University)

藪内 智 (京都精華大学) Satoshi YABUUCHI (Kyoto Seika University)

生馬 裕子 (大阪教育大学) Yuko IKUMA (Osaka Kyoiku University)

17:00-17:45

**総会・学会賞授与式：201教室**

General Meeting & LET Awards

18:00-19:30

**懇親会・学会賞受賞者挨拶：フードバー（1階）**

Convention Reception: Food Bar, 1st Floor

**8月8日 (月)**

Monday, August 8th

9:30-

**受付：曙館1階ホール**

Reception: 1st Floor, Akebono

10:00-15:00

**賛助会員展示：2階、3階ホール**

Commercial Members' Exhibits

※巻末の出展賛助会員一覧をご覧ください。

**研究発表・実践報告**

**201教室**

司会：

榎田 一路 (広島大学)

ENOKIDA Kazumichi (Hiroshima University)

神谷 健一 (大阪工業大学)

KAMIYA, Kenichi (Osaka Institute of Technology)

10:00-10:30 142 実践報告

携帯電話を利用したオリジナル英語学習用ポッドキャストの配信と授業での活用

Delivering Original English Learning Podcasts to Mobile Phones

榎田 一路 (広島大学)

ENOKIDA Kazumichi (Hiroshima University)

10:40-11:10 198 実践報告

アカデミックイングリッシュ学習用CALL教材の開発とその改善および評価

Development, Enhancement, and Evaluation of CALL Materials for Learning Academic English Skills

古泉 隆 (名古屋大学)

KOIZUMI Takashi (Nagoya University)

松原 緑 (名古屋大学)

MATSUBARA Midori (Nagoya University)

佐藤 雄大 (名古屋大学)

SATO Takehiro (Nagoya University)

尾関 修治 (名古屋大学)

OZEKI Shuji (Nagoya University)

杉浦 正利 (名古屋大学)

SUGIURA Masatoshi (Nagoya University)

村尾 玲美 (名古屋大学)

MURAO Remi (Nagoya University)

11:20-11:50 204 実践報告

スマートフォン向け語彙学習ツールの開発と評価

Development and Evaluation of a Vocabulary-Learning Tool for Smartphones

古泉 隆 (名古屋大学)

KOIZUMI Takashi (Nagoya University)

阪上 辰也 (名古屋大学)

SAKAUE Tatsuya (Nagoya University)

坂東 貴夫 (名古屋大学)

BANDO Takao (Nagoya University)

天野 修一 (名古屋大学)

AMANO Shuichi (Nagoya University)

新實 葉子 (名古屋大学)

NIIMI Yoko (Nagoya University)

12:00-12:30 154 実践報告

データベース・ソフトウェアの教育利用の可能性—例文提示ツールの仕組みを中心に

An Application of Database Software for Educational Purposes -- Development of a Flashcards Tool for Bilingual Sentence

神谷 健一 (大阪工業大学)

KAMIYA, Kenichi (Osaka Institute of Technology)

## 202教室

司会：

安藤 直 (名古屋学芸大学)

Tadashi ANDO (Nagoya University of Arts and Sciences)

竹井 光子 (広島修道大学)

Mitsuko TAKEI (Hiroshima Shudo University)

10:00-10:30 135 実践報告

iPad、iPhone、iPod touchを利用したモバイルサーバ発信動画・音声試験

Testing with Movie or Voice Aids through a Mobil Server; utilizing iPad, iPhone and iPod touch

安藤 直 (名古屋学芸大学)

Tadashi ANDO (Nagoya University of Arts and Sciences)

10:40-11:10 152 実践報告

オリジナルソフトを活用した日本人英語学習者のイントネーション学習による効果

The Effects of Intonation Practice for Japanese EFL Learners by Using Revised Original Software

園部 秀行 (愛知学院大学、非常勤講師) SONOBE, Hideyuki (Aichi Gakuin University, Part-time Instructor)

上田 誠 (愛知産業大学)

UEDA, Makoto (Aichi Sangyo University)

11:20-11:50 169 実践報告

孤立型言語の自律学習システムの提案：ベトナム語CALL教材の開発

A Proposal of Autonomous Learning System for Isolated Languages: a Development of Vietnamese CALL Materials

清水 政明 (大阪大学世界言語研究センター) SHIMIZU Masaaki (Research Institute for World Languages, Osaka University)

近藤 美佳 (大阪大学大学院言語文化研究科) KONDO Mika (Graduate School of Language and Culture, Osaka University)

小幡 信 (大阪大学世界言語研究センター) OBATA Shin (Research Institute for World Languages, Osaka University)

12:00-12:30 196 実践報告

Moodleを利用した公開・協働型学習導入の試み

Promoting Open and Collaborative Learning with Moodle

竹井 光子 (広島修道大学)

Mitsuko TAKEI (Hiroshima Shudo University)

マシュー・ポーター (広島修道大学)

Mathew PORTER (Hiroshima Shudo University)

## 203教室

司会：

名部井 敏代 (関西大学)

Toshiyo NABEI (Kansai University)

松田 紀子 (関西学院大学大学院生) Noriko MATSUDA (Kwansei Gakuin University  
Graduate School)

10:00-10:30 177 研究発表

大学生学習者による「学びの報告」：英語授業中の活動と気づき

Uptake reports from college students: EFL learning activities and learners' noticing

名部井 敏代 (関西大学) Toshiyo NABEI (Kansai University)

10:40-11:10 183 研究発表

シャドーイングプラクティスのライティング力向上への有効性

The Effects of Shadowing Practice on Second Language Writing

大塚 智恵 (京都教育大学大学院教育学研究科教科教育専攻英語教育専修)

OTSUKA Chie (The Graduate Research Division of Kyoto University of Education)

11:20-11:50 185 研究発表

L2音声提示文の統語的曖昧性の解消におけるシャドーイングの効果

The effect of shadowing training on the syntactic disambiguation of auditory presented sentences in L2

安藤 京子 (私立神戸山手女子中学高等学校) ANDO Kyoko

12:00-12:30 203 研究発表

聴覚単語復唱が日本人英語学習者の音声処理に与える影響

Effects of Auditory Word Repetition on Speech Processing of Japanese University Students

松田 紀子 (関西学院大学大学院生) Noriko MATSUDA (Kwansei Gakuin University  
Graduate School)

## 301教室

司会：

宮崎 佳典 (静岡大学情報学部) Yoshinori MIYAZAKI (Faculty of Informatics, Shizuoka  
University)

伊庭 緑 (甲南大学) Midori IBA (Konan University)

10:00-10:30 160 研究発表

技術文献コーパスを活用した英語技術文書作成支援Webアプリケーション開発

A Web Application Based on Technical Corpora to Support Technical Writing

宮崎 佳典 (静岡大学情報学部) Yoshinori MIYAZAKI (Faculty of Informatics, Shizuoka  
University)

田中 省作 (立命館大学文学部) Shosaku TANAKA (Ritsumeikan Univ., College of Letters)

小山 由紀江 (名古屋工業大学) Yukie KOYAMA (Nagoya Institute of Technology)

10:40-11:10 172 研究発表

TTSを利用した音声評価システムによる自律的発音教育の実践について

Self-directive pronunciation practice using an automatic-estimation program with TTS system

山本 勝巳 (流通科学大学) Katsumi YAMAMOTO (University of Marketing and  
Distribution Sciences)

東 淳一 (流通科学大学) Junichi AZUMA (University of Marketing and Distribution  
Sciences)

11:20-11:50 176 研究発表

## コンピュータを利用した英語発音練習におけるローパス・フィルターの効果

The Effectiveness of Low-Pass Filters in English Pronunciation Training

伊庭 緑 (甲南大学)

Midori IBA (Konan University)

## 302教室

司会：

牧野 眞貴 (近畿大学)

Masaki MAKINO (Kinki University)

安達 理恵 (愛知工科大学基礎教育センター) ADACHI Rie (Aichi University of Technology)

10:00-10:30 137 実践報告

小学校英語活動指導者養成授業における発音指導実践報告

Instruction of English Pronunciation in Elementary School English Teacher Training Program

牧野 眞貴 (近畿大学)

Masaki MAKINO (Kinki University)

10:40-11:10 157 実践報告

英語スピーキングテストにおける対話者の存在がスピーチパフォーマンスに与える影響

The influence of an interlocutor for Japanese English learners' speech performance

柳瀬 学 (関西大学 大学院)

YANASE Manabu (Kansai Univ.)

11:20-11:50 165 実践報告

女性文学を取り入れた日本人学生のための英語教材開発

Designing Materials for Japanese University Students: Woman's Literature in the EFL Classroom

野村 るみ子 (名古屋大学国際言語文化研究科) NOMURA Rumiko (Nagoya University)

12:00-12:30 211 研究発表

小学生の外国語活動における動機づけモデル

Japanese elementary students' motivational model in foreign language activities

安達 理恵 (愛知工科大学基礎教育センター) ADACHI Rie (Aichi University of Technology)

## 303教室

司会：

中西 のりこ (神戸学院大学)

NAKANISHI, Noriko (Kobe Gakuin University)

田淵 龍二 (ミント音声教育研究所) TABUCHI, Ryuji (Mint Sound Education Group)

10:00-10:30 158 研究発表

英語発音の習得目標モデルと学習者の個人的要因の関係：KJ法を用いた分析

Relations between English Pronunciation Acquisition Target and Learners' Individual Factors: Analysis through the KJ Method

中西 のりこ (神戸学院大学)

NAKANISHI, Noriko (Kobe Gakuin University)

10:40-11:10 208 研究発表

2±1秒の制約 --- 音声データベースに基づくBreath Group解析

Time Constraints for 2±1 seconds: A speech-database analysis on the duration of Breath Groups

田淵 龍二 (ミント音声教育研究所) TABUCHI, Ryuji (Mint Sound Education Group)

12:50-13:20

## 賛助会員デモンストレーション

Demonstrations

### 301教室

12:50-13:20 233 株式会社マクミラン ランゲージハウス

The Advantages of Digital Workbooks

ダーレン・ハリデー (営業部) Darren HALLIDAY (Sales & Marketing)

### 302教室

12:50-13:20 234 センゲージラーニング株式会社

Reading Explorer 2 を用いた多面的リテラシー開発授業

渡辺 雅仁 (横浜国立大学) Masahito WATANABE (Yokohama National University)

### 303教室

12:50-13:20 235 パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社

L3StageとVSS自動スラッシュ作成機能 (開発中) を利用した英語リスニング、スピーキング学習のご提案

Introduction of making use of "VSS" with automatic slash generating function and "L3stage" for English learning

草野 厚生 (パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社)

Atsuo KUSANO (Panasonic System Solutions Japan Co., Ltd.)

### 304教室

12:50-13:20 236 財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会

TOEIC(R)スピーキングテスト /ライティングテスト

TOEIC(R) Speaking and Writing Tests

丹野 一茂 (財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

Kazushige TANNO (The Institute for International Business Communication)

### 203教室

12:50-13:20 238 株式会社 内田洋行

TOEIC(R)テスト学習コース～ETS公式問題収録～のご紹介

The Introduction of a e-Learning system with ETS official TOEIC(R) studying contents

須藤 綾子 (株式会社 内田洋行 公共事業本部)

SUTO Ayako (Public Sector Headquarters)

13:30-15:00

## 全体シンポジウム：201, 202教室

Symposium

※202教室は201教室からの中継となります。

### 映像メディアは英語学習の自律性・継続性を実現するか

コーディネータ：亀山 太一 (岐阜工業高等専門学校)

パネリスト：

角山 照彦 (広島国際大学)

松葉 明 (名古屋市立平針中学校)

竹内 理 (関西大学・LET会長)

DVDやBS, CSの普及によって、映像メディアのavailabilityが飛躍的に向上し、英語学習者は好きなときに好みの外国映画や海外ドラマを自分で手に入れて利用することが可能になった。そこで今回のシンポジウムでは、映画やドラマなどの映像メディアを英語学習に利用することの意義とその効果について、特に学習の自律性・継続性という観点から考察してみたい。

角山照彦氏には、映画を題材にした教材の出版や授業実践の経験を通して、英語学習への映画の利用の可能性についてお話しいただく。

松葉明氏には、映画等の映像メディアに関するその豊富な映画知識をもとに、これらを英語学習に利用する場合に参考になる作品の選択や、英語学習に映像メディアを利用することの魅力について語っていただく。

竹内理氏には、自己調整学習の視点から、映画等の映像メディアを使った英語学習について、その特徴や効果、および学習の際の留意点などについてコメントをいただく。

15:10-15:25

## 閉会式：201教室

Closing Ceremony

## 大会事務局から

### Information

最新のご案内は大会サイトをご覧ください。

### 受付・参加費

- 大会受付は、2日目の8月7日（日）と3日目の8月8日（月）に曙館1階キャンパスホールで行います。
- LET会員の方は無料でご参加いただけます。各支部受付で参加登録をし、名札をお受け取り下さい。
- 非会員の方は当日専用受付で、当日会費3,000円（学生会費2,000円）を納入し、当日会員用の名札をお受け取り下さい。当日会員の資格は大会期間中有効です。なお、各支部受付にて入会手続きをお取りいただきますと当日会費は無料となります。
- 団体会員はお一人のみ会員扱いとなります。お二人目以降の参加につきましては、当日会費を各支部の受付でお支払い下さい。
- 大会期間中は名札が会員証となります。会場では名札をおつけ下さい。

### 『発表要項集』

各発表の要項（ハンドアウト）を集めたものです。大会期間中、受付にて1部2,000円で販売しております。

### 懇親会について

懇親会は大会2日目の8月7日（日）に、会場校の曙館1階食堂で行います。会費は3,000円です。当日朝より懇親会受付カウンターを設置しております。定員になり次第受付を締め切りますので、お誘い合わせの上、お早めにお申し込み下さい。

### 昼食・休憩

- 大会期間中は学生食堂が営業しております。どうぞご利用下さい。
- 休憩は受付横のラウンジでおとり下さい。なお、大学の館内は全面的に禁煙です。

### 会場への交通

会場へは公共機関をご利用下さい。参加者用の駐車場の用意はございません。

### 出張依頼状

出張依頼書が必要な方は、大会2週間前までに大会事務局に文書でお申し込み下さい。（宛先は表紙をご覧ください。）その際、宛名を書き切手を貼った返信用封筒を同封して下さい。なお、指定の書式がある場合は併せてお送り下さい。

### 宿泊

大会事務局では、宿泊の斡旋はいたしておりませんので、各自でご手配下さい。

## 出展賛助会員一覧

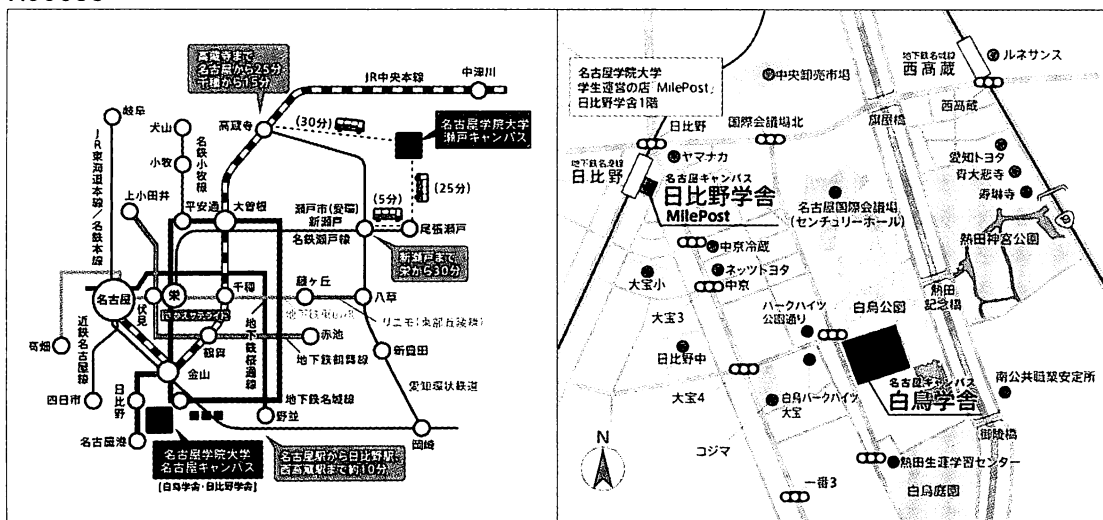
### Commercial Exhibits Members

財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会  
センゲージラーニング  
株式会社 金星堂  
チエル株式会社  
HOYAサービス株式会社  
パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社  
G-TELP日本事務局  
株式会社 成美堂  
株式会社 エル・インターフェース  
アルク、アルク教育社  
文化学園アカデミックアーカイブセンター  
株式会社 ダイネエド ジャパン  
リアル・イングリッシュ・ブロードバンド株式会社  
株式会社 VERSION2  
国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部  
株式会社 教育測定研究所  
株式会社 ピアソン桐原  
株式会社 マクミラン ランゲージハウス  
日本ビクター株式会社  
株式会社 内田洋行  
株式会社 アンペール  
電子システム株式会社

(申し込み順)

## 交通アクセス

### Access



#### 地下鉄日比野駅から

1番出口を出てヤマナカ前を右へ200mほど歩き、「国際会議場北」交差点を右折し、名古屋国際会議場を左手に見ながら500m進むと左手に白鳥学舎があります。

#### 西高蔵駅から

2番出口を出て、名古屋国際会議場方面（地下鉄階段出口の道路面に案内表示があります）へ200mほど歩き、旗屋橋を渡りきったところを左へ堀川沿いを500m歩いて白鳥公園にはいると白鳥学舎があります。